

令和6年度 全国学力・学習状況調査 羽島市の結果と今後の指導について

◇質問紙調査より

1 子供たち自身のことについて

○自分にはよいところがあると感じている児童生徒の割合が増加している。各学校において、児童生徒の自己肯定感の醸成を大切にしている成果と考えられる。

○将来の夢や希望をもっている児童生徒の割合が小学校、中学校ともに増加している。各学校での、職業講話や職場体験等の体験的な活動を取り入れたキャリア教育の成果が出ている。

△「いじめはどんな理由があってもいけない」と考える児童生徒は多いが、全員ではない。

〈今後に向けて〉

- ・小学校から発達段階に応じた体験的な活動を取り入れたキャリア教育を実施して、目標をもって主体的に取り組む児童生徒を育成する。
- ・羽島市児童生徒のいじめ防止等に関する条例に定められている3か月に一度のいじめの防止等を推進する週間を生かし、児童生徒がいじめについて向き合う機会を大切にしていく。

2 学校の学習での ICT 機器の活用について

○ICT 機器の活用頻度は、小学校、中学校ともに全国平均を大きく上回っている。

○ICT 機器が授業の役に立つと回答した児童生徒が多く、ICT 機器の効果的な活用が行われている。

〈今後に向けて〉

- ・ICT 機器を使って、個別の学習進度に対応したり、家庭学習を充実したりするなど、より効果的な活用を試みる。
- ・発達段階に応じた情報モラル教育をとおして、児童生徒が情報社会の中で生きていくために必要な考え方や態度を養う。

3 学校生活とのかかわりについて

○中学校において、「学校に行くのが楽しい」「友達関係に満足している」と回答した生徒の割合が増加した。コロナ禍の影響が減り、人とのかかわる機会が増えたことが理由の一つと考えられる。

○学習で分からないことがあったときに、自分で学び方を工夫できると回答した児童生徒の割合が高い。ICT 機器を活用したり、仲間や教師に聞いたりして自分で解決する力が身に付いてきている。

〈今後に向けて〉

- ・学校行事、授業で引き続き人との関わりを大切にしたり、ソーシャルスキルトレーニングを行い、仲間との関わり方を学ぶ機会を意図的に設けたりしていく。
- ・児童生徒が主体的に学びを進めていくような授業を重視していく。

4 子供たちと地域や家庭生活との関わりについて

○「地域や社会をよくするために何かしてみたいことがある」と回答した児童生徒の割合が全国平均を上回っている。

△「地域の活動に参加している」と回答した児童生徒の割合が低い。

△「放課後や週末に、テレビや動画、ゲーム、SNS で過ごす」と回答した児童生徒の割合が、「家族で過ごす」と回答した割合を上回っている。

〈今後に向けて〉

- ・学校においても、地域の人材を活用した教育課程を編成し、地域と子供たちとのつながりを強くしていく。
- ・情報モラル教育や家庭教育をとおして、家庭での過ごし方について考える機会を大切にする。

【国語】

《小学校及び義務教育学校（前期課程）》

（１）全国の平均正答率との比較より

- ・全国に比べ、羽島市の平均正答率は、全体的に下回っている。
- ・目的や意図に応じて書くことを選ぶ等の「書くこと」は全国平均と同等である。
- ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」にかかわる設問に課題がある。
⇒文の構成を理解した上で、主語と述語との関係を捉えるような場面を位置付ける指導が必要
- ・「話すこと・聞くこと」にかかわる設問に課題がある。
⇒目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を選択して、伝え合う指導の充実が必要

（２）羽島市の平均正答率の特徴より

- ・「情報の扱い方に関する事項」（情報と情報を関係付けすること）にかかわる平均正答率が高い。
- ・「話すこと・聞くこと」（資料を活用して、自分の考えが伝わるように工夫すること）にかかわる平均正答率が低い。

《中学校及び義務教育学校（後期課程）》

（１）全国の平均正答率との比較より

- ・全国に比べ、羽島市の平均正答率は、全体的に下回っている。
- ・「我が国の言語文化に関する事項」にかかわる設問は全国平均を上回っている。
- ・「読むこと」にかかわる設問に課題がある。
⇒短歌の内容について、描写をもとにとらえられるように指導の充実が必要

（２）羽島市の平均正答率の特徴より

- ・「書くこと」（目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること）にかかわる平均正答率が高い。
- ・「読むこと」（文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること）にかかわる平均正答率が低い。

小学校及び義務教育学校（前期課程）では、「国語の勉強は好きだ」と回答した児童は全国平均より多く、「国語の勉強は大切だ」「国語の授業はよく分かる」と回答した児童が9割程度います。一方、前述のとおり平均正答率が全国を下回っています。

このことから、授業に意欲的に向かう児童の姿は大切にしつつ、本調査の結果を受けて各学校が育成したい資質・能力を明確にした上で、重点的な指導を実施する必要があります。特に、「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、市として弱さが継続してみられることから、意図的な指導を低学年から繰り返し行っていくことが大切です。

中学校及び義務教育学校（後期課程）では、展開を捉えながら話し合い、考えをまとめるなど「話すこと・聞くこと」に関しては全国平均に近づいていますが、文章と図の関係を結び付けて内容を解釈するなど「読むこと」に課題が見られます。

質問紙調査の結果からも、日常的に本や新聞を読む生徒に偏りがあることが分かります。本や新聞を読むように啓発したり、意図的に取り上げて指導したりすることで、文章と図を結び付けて捉える力を育成していくことが大切です。

【算数・数学】

《小学校及び義務教育学校（前期課程）》

（１）全国の平均正答率との比較より

- ・全国に比べ、羽島市の平均正答率は全体的に下回っている。
- ・「数と計算」にかかわる設問に課題がある。
⇒計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察する問題に弱さがある。計算の工夫をするよさを実感させるような指導の工夫が必要
- ・「図形」にかかわる設問に課題がある。
⇒用語の意味を理解した上で、個々の学習状況に応じた問題に取組めるような指導の工夫が必要

（２）羽島市の平均正答率の特徴より

- ・「データの活用」にかかわる設問（データを分類整理し、表に表したり読んだりすること）の平均正答率が高い。
- ・「変化と関係」にかかわる設問（速さの問題で、時間と距離の関係を考察すること等）の平均正答率が低い。

《中学校及び義務教育学校（後期課程）》

（１）全国の平均正答率との比較より

- ・全国に比べ、羽島市の平均正答率はほぼ同じである。
- ・「図形」にかかわる設問で、平均正答率がやや高い。
- ・「関数」にかかわる設問に課題がある。
⇒関数の式から、グラフの特徴を判断するような問題に指導の工夫が必要である。

（２）羽島市の平均正答率の特徴より

- ・「数と式」（等式を目的に応じて変形する、連続する２つの偶数を文字を使って表す）にかかわる平均正答率が高い。
- ・「関数」（事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する）にかかわる平均正答率が低い。

小学校及び義務教育学校（前期課程）では、９割以上の児童が「算数の勉強は大切である」「将来、社会に出たときに役に立つ」と回答しています。一方、「算数の勉強は好きだ」「解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな解き方を考える」と回答した児童は、全国平均を下回っています。

このことから、算数の勉強が大切だとは感じているものの、問題を解決する楽しさや算数のよさを十分に味わえていないことが考えられます。授業を振り返って、問題を解決できた考え方のよさを理解したり、生活とのつながりを考えたりすることが大切です。

中学校及び義務教育学校（後期課程）では、９割近くの生徒が「数学の勉強は大切だ」と回答しています。また、「数学の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」と回答している生徒も全国平均を上回っています。一方、「数学の問題が解けたとき、別の方法を考える」と回答した生徒は全国平均を下回っています。

このことから、数学の問題が解けるように粘り強く取り組んでいるものの、問題を解くことが目的になっていることが考えられます。数学で育成される筋道立てて説明する力は、将来を支えてくれる力です。根拠にもとづいて、飛躍や曖昧さがないように表現することが大切です。